

＜今朝の聖書から＞

村上定幸

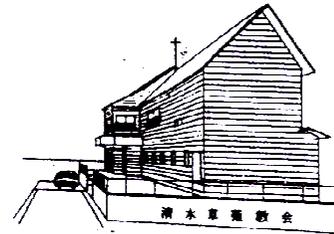
【洗礼】今朝の聖書箇所は“ヨハネによる福音書” 1:29~34 です。テーマは“洗礼”であり、まことの洗礼者としての主イエスに、洗礼者ヨハネが導くことの記録になっています。洗礼についてもう一箇所だけ聖書をみましょう。ローマ書 6:4に“わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。”とあることです。私たちを生きるようにしてくださった神の名による、主イエスの名による、聖霊の名によるバプテスマは、私たちも証することが出来るものです。

【洗礼者ヨハネ】この福音書には詳しく書かれていませんが、ヨハネについて少しだけ思い出しましょう。他の福音書にもこのヨハネの働きは記されています。先週の説教でも取り上げましたが、キリストを証するためでした。そしてこの勧め（ヨハネ運動という言葉で説明されることもあります）をヨルダン川の向こうの辺境の地で行っていたのですが、これは正統派ユダヤ人には許されないことだったのです。ユダヤ人は、成人した後ユダヤ人になろうとする場合以外には洗礼を授けません。生まれながらに神の民であるとしていた人々には当然のことです。ところがヨハネは、ユダヤ教徒はあんまり関係のない人々は勿論、ユダヤ人にも洗礼を受けるように勧めをしました。これは裁かれることにつながります。ファリサイ派の人々にとっては“おまえは誰の許しによって洗礼を授けているのか、信仰について説くことがお前には出来るのか”という具合にでしょう。“あなたはどなたですか（1:22）”という問いが裁きを示しているでしょう。常に洗礼者ヨハネは、キリストについて証しをするのですが、その時に必然的に“私はこういう者だ”と告白していることとなります。私たちの礼拝においても、告白は行われ重要視されますが、キリストはこのような方であると証したその瞬間に、実は、この方との関係において“私はこうだ”と証していることとなります。今朝の箇所でも洗礼者ヨハネは裁きを受けることによって自分を証していることが分かります。

【私はエリヤではない】大きな運動にまで発展していた、ヨハネのバプテスマですが、ルターはこのヨハネは高ぶらなかつた人だということを記しています。自分こそ改革者・革命家だと思いたい人はいっぱいいます。しかも正義の名によって口にされるのです。この試みに対して先週みましたように“私の後に来る方がそうだ”と答えています。洗礼によって、私たちも“私もキリストに道を明け渡すのだ”と答えているのです。

週報

2012年 1月 8日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042